



河上肇記念会報

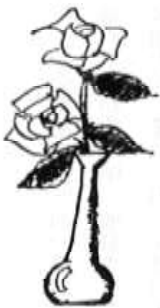
No. 19
1985. 2. 10

〒542

大阪市南区島ノ内一―二〇―一九（丸善石油ビル）
千代田商事内 河上肇記念会
電話 （〇六）二五二―三六九六
振替口座 大阪 三一三一九五

目次

一九八四年総会特集 1	
開会にさきだって	大門英太郎 …… (3)
開会の挨拶	世話人代表 杉原 四郎 …… (4)
講演	
河上先生、そして門下生との出会い	川勝 傳 …… (5)
今日の情勢と軍縮	
― 危機の時代と河上精神 ―	
宇都宮徳馬 ……	(10)
総会出席（予定）者の通信 ……	(17)
会員通信 ……	(23)
河上肇関係記事、編集後記	



一九八四年總會特集 I

十月十四日晴、墓前に供える菊の花束を持って法然院に入る。總會受付は早や準備が調えられていた。

受付の机には当日配布資料が並べられ、とくに本日講師、川勝傳氏の著書『反骨と友愛』（なにわ塾叢書、ブレンセンター刊）と、昨年総会ではたせなかったと急速出席し、講演を下さる宇都宮徳馬氏の月刊『軍縮問題資料』誌の最新号とが置れているのに注目させられた。やがてご遺族、羽村静子さん、鈴木洵子さんも見える。

定刻本堂にて法要が営まれ、墓前に献花された。

六十名を超える出席会員、総会場で昼食をとる。毎年山下氏から贈られる般若湯に、今年は会席弁当、さらに今井民子氏から贈られた「ぶどう」を食後にいただく。

つづいて総会がはじまる。事務局顧問役の大門英太郎氏より会員消息をかね、開会を宣し、世話人代表杉原四郎先生より講師紹介をかね、開会の挨拶があった。財界第一線で活躍、明解な論理とすきとうるような声の川勝氏は、河上先生とその周辺の人々との出会い、さらに今日の中国との交流に及び、ひきつづき先日朝鮮人民民主主義国から帰国されたばかりの宇都宮氏は、国家や体制を超えた人類の立場から軍縮の問題提起を説かれた。

会場熱気のうちに出席会員のスピーチに移る。終了時刻まで、予定しお願いした方の一部を割愛せざるをえない程盛会裡であった。

会期中、河上肇全集第一期全二十八巻、先九月に完成、それを記念に岩波書店の緑川亨社長と編集担当者の米浜泰英氏に出席会員のよせ書き

を送ることとし、色紙が回された。

総会後、川勝、宇都宮両講師を囲む二次会が法然院門前の湯豆腐屋で開かれた。秋の日のつるべおとし、早や夕闇が迫る頃、散会された。

（以下講演記録は講師のチェックを得たが、それ以外の文責は編集部にあることをおことわりいたします。なお、出席会員のスピーチは次号に掲載します）

（細川 記）



開会にさきだつて

大門 英太郎

本日は河上肇記念会総会のご案内を申し上げますところ、東京や九州を含めてたくさんの方々がお見えくださいます、まことにありがとうございます。

この一年を顧みさせていただきますと、東京河上会の代表の白石凡さんがお亡くなりになりました。白石さんは河上肇記念会とも河上家とも切っても切れないお方で、本場に惜しい大事な方を亡くして、思い出は尽きません。私どもの代表杉原先生がお葬式に参列、弔辞を捧げに行っていたきました。これに對し未亡人美智子様からこの総会にお手紙をいただきました、是非出席したいんだけれども、まだ体調が整わないので失礼するが、皆さんよろしくとのことでした。

それに東京河上会はご難がつづき、大島清先生が亡くなりました。大島先生の未亡人百合子様からも杉原先生のところへ、会報十八号に載せさせていただいた住谷一彦さんの追悼文に對して感懷をこめたお手紙がございました、何かの足しにさせていただきたいと、本会に寄附をいただきました。まことにありがとうございます。

それから、つい最近でございますが、大河内一男先生がお亡くなりになりました。大河内さんはこの前の河上肇百年祭のときに大変ごやっかいになりました。私の「偶ぶ文」を会報（十八号）に載せましたところ、わざわざ奥さんからお電話をいただいたようなことがございました。

それから、この間、本会の最長老である藤田敬三先生のお見舞に参りました。藤田先生は九十才でございます、去年ご病気だったのですが、

お目にかかったところ、なかなかお元気で、先生曰く、わしは八十五までは年のことを考えなかったと、これからでもできるだけ役に立ちたいと、そういうふうにおっしゃって、私は感激して帰ってまいりました。

それから、もう一つ、わが河上肇記念会の前の代表であります住谷悦治先生ですが、先日安井功さんと一緒にパプチスト病院へお見舞に行ってきました。面会謝絶でございましたけれども、うまく看護婦さんがはからってくれまして、お目にかかることができました。ご入院以来一年余りのご闘病で、点滴などをなさっておられました、幸いにも安井さんも私も御意をえることができました。ところが今度の総会に對して、住谷先生からお手紙をいただきまして、お役に立ってんけれども、皆さんにどうぞよろしくおっしゃってくださいということでした。まことにありがたいことと思います。

それから、この法然院の院主橋本さんが「さん」と言うたらおそれおおいけれども、お亡くなりになりました。この河上肇記念会がまだ記念会と称す前から、この法然院でお世話になっておりました。まことに残念なことに、まだお若くて、これからの学会にも重きをなす先生でございました。本会としても大変残念に思っております。ここで橋本院主のために黙祷しなければならぬのですが、それを略させていただきます、私の挽歌をお供えにしたいと思います。万葉集から、御立しし島の荒磯を今見れば生ひざりし草生ひにけるかも

最後に、今度の総会のご案内にご返事のはがきがたくさんとどきました。今回はがきの形式を変えましたところ、皆さんからいろいろなコメントをいただいております。これは事務局の独占すべきものでないので、事務局で整理して、本会報で順次ご報告申し上げたいと思います。

開会の挨拶 speech

世話人代表 杉 原 四 郎

きょうは河上肇の法要を兼ねて総会を開きましたところ、多数お集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

皆様方からいろんな意味でご支援をいただいております河上肇全集が、この九月末の第二八巻、書簡集の配本をもちまして完結いたしました。我々編集者七名がやってまいりましたが、初めの予定よりも二巻ふえました。これは書簡集が大分ふくらみましたので、二六巻の予定が二八巻になりましたけれども、最後まで多くの読者のご支援を得て、一応第一期が完結いたしましたことをご報告すると同時に、ご支援のほどにしてお礼を申し上げます。

引き続きまして、第二期がこの十二月から始まります。これは、河上肇の最晩年の代表作であります『資本論入門』に、さらに晩年の代表作であります『自叙伝』、この二つが第二期の中心でありまして、そのほか若い時分に書きました『日本農政学』を加えまして、七巻。それに、全集全体の索引、目録、年譜その他を別巻にいたしまして、全八巻で十二月十日第一期の配本から始まりまして、これが終わりますと、我々は肩の荷がおりないのでございますけれども、第一期に引き続きまして第二期に対しても、どうかご支援のほどをお願い申し上げます。

それにつきましても、こういう全集の完結をご報告する方々が、大門さんのお話にもありましたように、最近亡くなっていらっしゃることは大変寂しいことでございます。どうか皆様方、今後十分加聲くださいまして、第二期の終わりが再来年の二月になる予定でございますが、どうか全集の最後までご支援をいただきますようお願い申し上げます。

けさはど東京の脇村義太郎先生からお電話をいただきまして、全集の

一期が終わったし、それから多くの方々が亡くなったということもあるので、今度の総会はぜひ出たいと思っておったけれども、都合で出られないから、皆様にくれぐれもよろしくということでございます。脇村先生も大分ご高齢でございますが、電話でお話ししました限りでは大変お元気であらわれるようでございます。

さて、引き続き、きょうお二方のお話を伺うわけでございますが、まず川勝さんにつきましては、私から改めてご紹介申し上げるまでもなく、多年南海電鉄の責任者として関西財界の雄として活躍しておられましたことはご承知のとおりであります。

大正末から昭和の初めにかけて、日本の学生運動はなやかなりしころに、川勝さんは京大で直接河上におつきになったわけではございません。立命館で学ばれる傍ら、いろんな関係で河上とのつながりができて、かなり影響をお受けになったというふう聞いております。そのような経験が若い時分におありになるということで、最近朝日新聞に紙面批評で何回か筆を執っておられますが、そういう文章にも、非常に柔軟な若々しい考え方、川勝さんの単なる一財界人ということではない面があらわれているように拝察いたします。きょういただきました、なにわ塾でのご講話を読みましても、その一端がよく出ているように思います。

つづいて、宇都宮さんにお話を伺うわけですが、昨年総会でご予定いたしましたのが、急に訪中されることとなり、今年その役をはたしていただけたこととでございます。

宇都宮さんは、京大にお入りになって社会科学研究会でご活躍中、河上先生のご指導を受けられました。戦後はご承知のように政治家として、さらに今日「軍縮」運動にご活躍しておられます。先生から直接うかがえるかと思えます。

講演

河上先生、そして門下生との出会い

川 勝 傳

ただいま過分のご紹介をいただきました川勝でございます。

実は記念会にはずいぶん早くから名前を出させていただいておりました関係で、このたび大門さんから、おまえは記念会に古いだけが能じゃないから、今度は何かし

ゃべれというご命令を受けてまいったような次第でございます。



ただいまお話のように、先月でもって河上肇全集の第一期が完結をいたしました。その最後の全集月報二八に、堀江邑一さんが思い出を書いておられます。非常に私は懐かしう読んできました。この堀江さんの思い出のお話の最後に、河上門下で一番懇意だったのは長谷部文雄と宮川実と自分との三人だという意味のことを書いておられます。

先ほどお話のございましたように、私は立命館に籍を置いておりました。籍を持っているというだけの様な状態でございましたけれども、昭和三年に立命館を出るまでに在籍十年、その間に軍隊にとられたり、あるいは工場生活をしたりというような、右往左往の生活をしてまいりました。いよいよ落ち着いて勉強をしようかというときには、もう同期の連中が大学を出て行くような年になったわけでございます。

その間、大正十五年夏の河上先生の資本論の夏期講座、これは私は一日も欠かさず出席をさせていただきました。また、講義の日は、私はわざわざ京大生になりかわって（笑）先生の講義を聞かせていただいたというようなことでございます。

河上先生の門下の長谷部さんは同志社大学の教授でございました。それから、山下英夫さんは立命館の教授でございました、宮川さんは、当時和歌山高商の教授。それから、これは河上先生の門下ではございませんが、河田嗣郎先生の門下の四宮恭二さんも立命館大学の教授。山下先生と私は同年配でございます。それから、四宮さんはことし米寿でございますが、生きておれば長谷部さんも同年配でございます。それから、宮川さんが一つ上ではなかったかと思うんですが、いずれにいたしましても、私より四〇五歳先輩という程度でございますが、しかし、私の恩師でございます。いまもって四宮さんは、あ、川勝か、あれはおれの教え子じゃと、こう言われております。確かにそれは教え子には違いないかもしれません。そういう先生方に私は恵まれてまいりましたような次第でございます。

なぜこういう話を申し上げるかと言いますと、これがまた河上先生とかかわり合うことに相なった次第でございます。ご承知のように、河上先生は昭和五年に東京にお移りになり、昭和八年に逮捕され、十二年に出獄されたわけでございます。そのころ、私は東京と大阪を半分半分の

ような生活をしておりました。東京では紡績連合会の仕事をやっており、大要蔵しい準戦時体制に立ち向かうような時期でございました。そういう関係でございますが、山下さんは、私の卒業後二年ほどして立命館を追われ、東京へ帰ってまいりまして、立教大学の教授でございました。

それから、長谷部さんも続いて同志社を追われて、一時今治のお国の方へ帰っておったのでありますが、彼も東京へ出てまいりました。東京では、そういう人たちとはしばしばお会いをする機会があったような次第でございますが、十二年に河上先生がお戻りになります、山下先生に案内されてお宅へお訪ねしたこともございます。先生は野球に興味をお持ちになっておりました。それをお聞きしたものですから、私、後樂園の入場証を手に入れました、これを山下さんを通じて先生にお渡しをしていただいたところ、先生に大変喜んでいただきました。まだ、当時はナイターはございませんが、私も東京におりますときは後樂園にしばしばプロ野球を見に参りまして、河上先生と二、三度お目にかかったことがございます。ひょうひょうとして野球を楽しんでおられたお姿が目の中に残っておるような状態でございます。

その後、情勢がだんだん厳しくなりまして、私と非常に懇意で、先生であり、友人であるという付き合いをしてまいりました山下さんが、ある日、東京の丸の内の三菱二一号館の私の事務所へひょうせんとして尋ねてきたのであります。約束をしてなかったものですから、私は折悪しく入れ違いに事務所を出まして、大阪へ戻ったわけでございます。その日の夕方、大阪に着いた直後に、不便な当時でございましたが、東京から電話が入りまして、山下英夫先生が事務所へ見えたとという連絡がございました。どうしてこんなことをわざわざ知らせたのかしらんと思っただけですけれども、これが虫が知らせるといいますか、その日に山下氏は亡くなりました。率直に申し上げまして、山下先生は自殺をされたので

ございます。それが昭和十八年六月、もう二年辛抱していただければ、敗戦ということで情勢は一変しましたし、また山下さんがいろいろ考えておりました諸問題を、まとめて解くことができたのではないかと思います。まことに残念なことでございます。当時いかにその環境が厳しい状態であったかということでございます。山下先生は五人のお子さんを残して、昭和十八年六月二十八日、四二歳で亡くなり、一昨年奥さんがお亡くなりになりました。先日お嬢さんから手紙をいただきまして、山下先生をしのぶ会というのを四十年ぶりに東京の学者の皆様方から開いていただきました。両親の写真を前にしての同窓会でございましたと、こういうようなお手紙をいただき、古い昔をいろいろ思い出すような次第でございます。

それから、さらにさかのぼって、大正末期から昭和三年にかけて、ご承知のように学生運動が非常に活発に展開されてまいりました。社会科学研究会が、京都大学を中心に結成されたわけでございます。それと同時に、軍事教育の時代で、一番有名なのは小樽高商の軍教事件でございます。これに対しては私も、汽車に揺られながら小樽まで出かけていて、小樽高商で軍教反対を大いにおち上げたというようなことも思い出すわけであります。

その社会科学研究会の組織を立命館にもつくりまして、私がその代表で勉強会をやっておりました。その後、ご承知のように治安維持法違反で検挙が始まり、約四ヶ月の間検挙が続きました。当時、京都大学の学生だけで三八名が検挙されました。私は、実は母親が非常に若くして亡くなったものですから、すでに結婚をしておりました、子供がおりませんでした。その当時は、長谷部さんは結婚しておりましたけれども、四宮さんと山下さんはまだ独身でございまして、私の家へよくお見えになりました。子供をあやしていたりしたような関係でありました。ちょう

ど郷里の方から家内のばあさんが来ておるといふことで、会合の席を出て、家へ帰っておりました。そういう関係で実は検挙を免れたのでございます。そういうような状態の中で、だいたい弾圧がきつくなりまして、当時立命館の総長は中川小十郎氏で創立者でございますが、中川総長の自宅に私と山下さんと四富さんが呼びつけられ、社会科学研究会という名前を変えろという厳命を受けて、経済学研究会と名前を変えたようなこともございました。

そういうような時期に私もが受けた教育、特に河上先生のお教えを非常に強く印象づけられたような次第でございます。そして、私が連絡役になりまして、宮川さんは和歌山におりますので、いろいろな出版物を私の名前で先生にお送りをしたりするような時期があったわけであります。

宮川先生はいま非常にお元気でございまして、皆様方ご承知と思ひますけれども、最近、また経済学論集の出版を始めておられます。正確に申し上げますと、宮川先生は一八九六年生まれでございます。私よりも五つ上でございます。『宮川実経済学著作集』というのを出して、既刊されておりますのは『新経済学入門』と『賃金の理論』、『搾取の理論』という、いままで出された著書を、さらに集約して書き加えたような内容でございますが、引き続きもう二巻近く出る予定でございます。宮川先生は、著作活動と同時に、労働教育協会の仕事をされております。

その後、長谷部さんは一昨年、亡くなりました。『回想の長谷部文雄』という書物が出ておりますが、まさに長谷部先生をしのぶよすがになるうかと思っております。

こういうふうには河上先生とかかわり合う人たちが去って行かれたような次第でございますが、同時にまた河上先生を直接存じ上げないにいたしました。先生を懐かしくしのぶ人々がだんだんまたふえております。

特に若い人たちが先生の著作、その他を通じて、先ほどお話の全集なんかを通じて、相当心ある人たちは先生をしのび申し上げておるのではないかと、かように考える次第でございます。

その後、ずいぶん年がたってまいりまして、もう七年前になりますけれども、末川博先生がお亡くなりになる前年の秋に、ちょうど十一月ごろだったと思いますが、福の川のお宅へお訪ねをいたしました。これが末川先生との最後でございましたが、ちょうど『呉昌碩の絵と書』という書物が出版されたので、これをお持ちして、お宅へお訪ねいたしました。よう来てくれたというわけで、おれも実は呉昌碩の書を持っておるでというようなことから、呉昌碩のお話とか、あるいは中国の郭沫若さんのお話とか、いろいろな中国談義をいたしましたのであります。実は末川先生に対して郭沫若氏から訪中の要請の書簡が参っております。私が中国へ参りますと、郭沫若先生から末川先生を早く連れてこいというようなお誘いを受けておりましたので、私がお供をするから、ぜひ一度中国へまいりましょう、もうばつぱりこしを上げてください、というようなお話をしておったようなわけでございます。ところが、それを果たせずに末川先生は亡くなりました。

そのときに、おい、おまえ、飯田という男を知ってるだろう。と云って末川先生はにこにこお笑いになって、こないだ飯田と名乗る老夫婦が、お別れにきましたと、こういうて訪ねてきよった。どこから来たかと聞くと、富山から参りましたというて、富山の菓子を持ってきよってな、という話。これがだれかといひますと、昔の川端署の特高でございます。皆さんの中にはこの飯田という名前をすぐ思ひ出している方もございましょう。(笑)宇都宮先生もあるいはご存じじゃないかと思ひます。私なんかも、しばしば飯田特高にはお世話になったものです。これが老夫婦で末川先生を訪ねてきて、実は、昔川端署におりました飯田でございます。

ますというあいさつに、まあ上がれやというわけで応接間へ上げられて、お茶を出し、一時間余り昔の大正末期から昭和初めの話をされたそうです。そのときに、君の名前も出たで。(笑)飯田君何をしているか、と聞いたところが、警察をやめて郷里へ帰って、保険の仕事をして、幸いこの保険の仕事で成績を上げ、いま代理店をやっております。どうにか生活は安定をしておりますので、何としても一度京都へ行って、先生にお会いしたいという気持ちがある数年來続いておりますので、思い切って家内を連れて参りましたと、こういうようなことだったそうで、人間の出会い、先生の人間的な風格、そういうものを感じさせられて、私も非常に感激をしたような次第でございます。そのときに、先生が色紙を書いて、君たちも幸せでいつまでも元気でいけよと、手を握って別れたというお話をされたのを、ここでご報告を申し上げておきます。実は、私は先月北京へ参りましたので、中国のお話にちょっと触れておいたかどうかということですが、宇都宮先生に来ていただきまして、先生は十一日に中国からお帰りになったばかりで、しかも今回は、北朝鮮の方へお越しになっておりますので、後ほど、先生のお話をお伺いをいたしたいと思います。

私が参りましたのは、毎年の恒例でございますが、日中経済協会の副会長を仰せつかって、関西本部の仕事をしておる関係で参りました。最近、中国が非常に大きな変化をしておりますことは、新聞その他でご承知のとおりでございます。中国では、文革の後の四人組の追放、四つの近代化運動というものを展開いたしましたして、同時にまた、いわゆる開放政策をとっておるわけでございます。体制改革委員会というのがございまして、今度初めて、この委員会の局長に会っている話を聞いたわけでございます。聞いてみますと、この委員長は趙紫陽総理だということでございます。この「体制」という言葉が日本と中国とニュアンスが

ちょっと違うわけで、日本の場合は、総理が委員長で「体制改革」ということになる、もう基本的に経済体制なり社会体制なりの改革と結びつけがちでございますが、これは「制度」というような意味にとった方が適當ではないかと考えます。

したがって、週刊誌的な興味本位の報道としては、中国が一路資本主義体制へ移りつつあるという受け取り方をしておりますし、そういう記事が出たりいたしておりますけれども、基本的には

中国の社会主義体制は絶対に変わりません。また、私がこのたび趙紫陽総理あるいは谷牧、張勳夫といった政府の指導的な人たちにお会いしていろいろ話をいたしましたけれども、現在の政治体制をあくまでも強化していくということには自信を持っているわけでありまして、ただし、資本主義国からのいろいろな技術導入とか合併合作というようなことで、非常に交流が激しくなっておりますので、そうした自由主義国あるいは資本主義国との協力体制なり手法を取り入れる場合は選択を誤ってはいけませんよということを、これは私の意見として強く申し上げておいたような

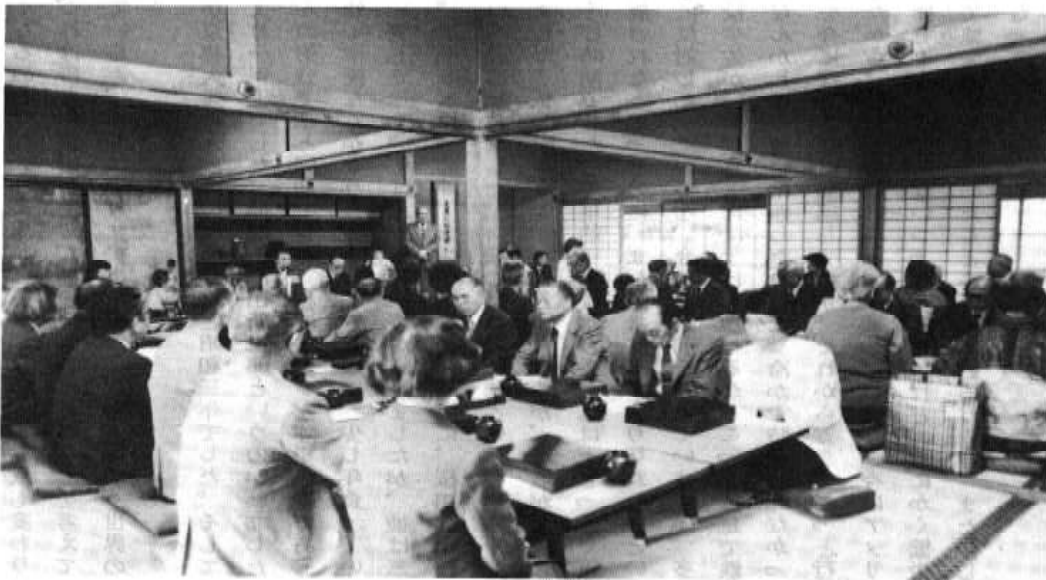


次第で、指導層はそういう点は十分承知いたしておりますけれども、一般市民感情としてはこれをどう受けとめておるか、将来こういう点にやはり問題が出るような感じもいたしております。

ご承知のように、香港と中国の国境を越えた深圳というところ、汕头、珠海、と福建省の廈門、この四ヶ所が現在経済特区ということになっております。この特区は、もうすでに高層ビルがどんどん建っているようでありまして、私はまだ見ておりませんので一度見たいものだと思っておりますが、ゴルフ場までできております。香港からバッグをかついでゴルフにやってくる。聞いてみますと、その特区の一番本土寄りのところに非常に大きな道路をつくりまして、そこに第二の国境線があるようなかっこうで、人民解放軍が駐屯をして警戒をしております。

この経済特区というのは、中間的な意味では、ある程度資本主義化というか、自由主義化したような状態でございますが、これは中国の非常に大きな長期的な物の考え方で思い切ったこういう政策をとったのではないかと思います。というのは、先般新聞にも報道されましたように、一九九七年問題というのは香港の主権が中国へ返る年であります。中国は五〇年間は現在の状態を認めるということを基本にした仮協定ができたわけでございます。したがって、特区というのは、それをちゃんと展望して、その中間的な地帯を設けたのではないかとこういう感じがいたしております。それと同時に、北から南にかけての海岸地域、十四地区にやはり経済開放区が設定されたわけであります。これは権限を相当程度拡大してやっということと、それから海外との経済交流並びに合併合作事業を展開して生産性を上げたいと、こういうような基本的な考え方でありまして、後はど宇都宮先生からお話があるかと思えますけれども、今後、中国を見る見方というものに十分注意をする必要があるのではないかと、かように考えております。

いろいろとりとめのないことを申し上げましたけれども、私のお話はこの程度で終わらせていただきます。どうもありがとうございました。
(拍手)



—— 会 場 風 景 ——

講演

今日の情勢と軍縮

——危機の時代と河上精神——

宇都宮 徳馬

先ほど川勝先生からのお話もありましたけれども、私は去る十月十一日に北朝鮮から帰ってまいりました。年寄りですから、うちの家内どもが心配いたしました、とにかく少し静かにしていると言うのです。ところが大門さんと大変な約束を何度もしては、しょっちゅう違約しているものですから、今度は必ず約束を果たすからといって今日やってまいりました。きのうはホテルに泊り、ホテルで按摩にかかりました。若いつもりですが、足が多少悪くなったものですから。その按摩の言うことが気に入った。宇都宮先生は正義の士だと言う。それでも、こりが半分ぐらいとれた。(笑)

私は今日ここへ来て、大体皆さんの年はわかっています、わかっているけれども、若い人が多いね。大門君も若いし、川勝さんも若い。先き



私は年を聞いたんです。私は一九〇六年生まれですが、川勝さんは一九〇一年。やはり志を持って人類とか何とか考えていると、だんだ

ん若くなるのじゃないかと思わざるを得ない。男も女も変わりはないから、これは皆さん宣伝してください。自分だけのことを考えてこそやっている、人間は老けますよ、だから、もっと広く世界のことを考える。

私が京都大学に入ったのはちょうど昭和三年でした。そして大門さんは私より一年以上でした。仲間に山田新三郎というのがいました。彼は大門さんの弟分で私と同期でした。私はオヤジが陸軍大将であったので、陸軍幼年学校なんかをうろうろしてきたので、少し年食っていて、私の方が一つ上でした。私は水戸高等学校から来ました、彼は三高からでした。水戸の水戸っぱは、大正明治維新のときに、桜田門事件を起した、いろいろ暴れました。一種の暴れの伝統というのが水戸高等学校にありました。私が水戸高等学校に入ったところが、軍教が学校に強制されるような時期でした。陸軍幼年学校から来た私は、せっかく軍事教育から開放されたと思ったのに、また軍教なんてやり切れないというわけで軍教に反対した。そのころ、今でも名前を覚えていますが、多治見という退役少佐がいて、盛んにはっぱをかけるが、こっちは足で鉄砲を持ったりなんかして軍教を冷かしたりした。冷かす時代じゃなかったということは今になって私は痛感しますが、それからガラガラと行っちゃったんだから。そしてついに日本は破滅したわけだ。今はアメリカがつかえ棒で——これは危ないつかえ棒だけれど、とにかく繁栄している。そして繁栄の中で浮ついたことを考えているけれど、また少し危ない時代になってきている。

私はずっと代議士をやっていますが、衆議院議員のときに自民党から脱党しまして、その後参議院に東京地方区から出たのですが、私の公約は軍縮・平和・緊張緩和なんです。宮都宮軍縮事務所から『軍縮問題資料』を毎月出版しています。一方、超党派で軍縮議員連盟というのを

くりました。

本会に生沼君も出席していますが、私が京都に来たときに、彼がどこから司令を受けたのか私の下宿へやって来て、鴨川の河原に連れていかれていろいろ説得するわけです。それで、大門なんて悪いのに紹介されて、さっきの川勝さんの話の中に出た川端署の飯田なんていうのにご縁ができたわけです。水戸から京都へ水田三喜男なんかも一緒に来た。大蔵大臣やって死んだが、彼も私より年は一つ上で、私と同期なんだからあんまり勉強のできた方ではないだろう。(笑)われわれは大体入れられちゃったけれど、水田三喜男の方は要領よく渡っているものだから捕まらないで、結局東京の電氣局に入って、市電の車掌なんかやっているときに終戦になった。戦後代議士に出るときに、自由党から出ようと思うと私らのところに相談に来た。「自由党から出る。非常にいいことだ、大賛成だ」と私が水田に言いましたら、君からそんなこと言われようとは思わなかったと喜び勇んで自由党から出た。昭和二十一年のことでした。

こんな話はこれくらいにして、私は河上先生のことと思ひ出すことが一つあるのです。あのころ、若僧どもはみんな生意気で、河上先生をあまり尊敬してないんだ。それで、河上先生はどこへ行くかわからないから、少し監督しようというくらいな気持ちで接近してた。(笑)しかし、若僧というのは自由だからいろんなことを考えますからね。先生のところにはきれいなお嬢さんがいて、それにみんなひかれて行ったせいも少しはある。(笑)われわれはちゃんと親から下宿代をもらっているんだけど、仲間に分けたりなんかして、ろくな生活をしていないわけだ。河上先生の家へ行くと、西洋菓子が出る。今は西洋菓子なんていくらでもあるが、当時は貴重品で、上流社会でなきゃ食えないような西洋菓子が河上邸へ行くと食える。紅茶と一緒に西洋菓子をお嬢さんが持ってくる

のを楽しみにして行ったわけです。ところが行ってる者は生意気で、とにかく河上はいまでは修正主義だとか何とかということだろうね。そういうことで必ずしも心服しないで行っているのだから……。とにかく文句を言いに行くわけだ。私が文句を言ったのはこういうことです。「ソビエト・ロシアが何だかんだと宣伝しているけれど、ソビエト・ロシアは日本にいろいろ宣伝するより、自分の社会主義がどんな立派なものかちゃんとつくって見せたらどうだ。私はそう思うけれど、河上先生はどう思いますか」と言ったことがありますね。河上先生が何と返事されたか、正確なことは私も忘れたけれども、「それも確かにその通りだ」というようなことを言われたと思います。

今日、ソ連や中国がわれわれから見てもっと立派な社会主義社会をつくってくれりゃ、社会党は衰退しません。いくら社会主義とか何とかいっても、変なものをつくられたんじゃたまらない。一国社会主義というのは正しいのであって、社会主義になるには社会主義になる事情があるんだからなるわけだけれども、なった以上はその一国社会主義を立派につくり上げていかなければならない。

さっき川勝先生から私が北朝鮮に行ってきたという話がありました、金日成と私は今度で五度会いました。私は一九六四年に初めて行って、六五年に二度目。そのとき初めて金日成に会った。それから金大中事件の翌年、七四年に行つて、七五年に行つて、八一年に行つて、今度行つた。六度のうち五度金日成に会っているのです。金日成は純潔だから、私は初めから気が合う。今度会ったら、毎年来てくれなんて言っていました。何時間会ったなんていうことが非常に大事らしいが、社会党の委員長は二時間会ったなんて言っているが、私は三時間半会った。(笑)二時間まともな話をして、あとは飯を食った。金日成の言葉で一番面白かったのが二つほどある。

一つは、「とにかく社会主義でも共産主義でも米だ」と言うんだね。

「大衆がろくに飯を食えないようでは、社会主義にならない」と言うんですよ。それが非常に面白かった。彼は社会主義は、要するに初めから米社会主義だ。北朝鮮の地形やその他の条件は比較的いいです。水も南に比べりやあります。その水をいかに農業のために利用するか。最初から水利というものに一生懸命だった。それがまさに成功しているわけですね。水利の問題——川をせきとめて貯水池をつくり、まず農業用水に利用する。それから、小さな地域的な水力発電に利用するとか、場合によってはいろいろな交通に利用するとか、とにかく水というものを目いっぱい利用している。それほど北は自然に恵まれております。

今度は韓国に水害がおこったでしょう。それに対して北が援助物資を送るとか送らんとかで、お互いに掛引きやっているんじゃないかとやっている。結局韓国も受入れる、金日成も送るということになったわけだが、あの水害は漢江という川ですよ。漢江というのはソウルのところを流れている川です。このごろ、日本の言論機関はおかしい。そういう客観情勢を割に報道しなくなったね。何か北の方が悪い、韓国の方は馬鹿にいいなんて言っている。今日の新聞なんかでも、韓国は北に投資したいなんて言っている。北は笑いますよ。五〇〇億ドル近く外国から借款していて、北へ貸そうなんて言っても、北はきつとこちらから南へ貸してやるよと言うよ。ああいうことを新聞に出すでしょう。おかしいね。北の方の外国借款は、日本の中小企業がへそくりで輸出したようなものを支払ったりにしていません。特にラングーン事件に対する制裁措置以来はしていませんけれど、しかし西欧の方へは返しているわけだ。北の外貨借款は、大体三〇億ドルぐらいあったのが、今は一〇億ドルぐらいに減っている。南の外貨借款はいくらだと思いますか。南の全首相自身が二、三日前に発表しているのは、四三〇億ドルだと言う。四三〇億ドル外国から借款

して、いま高金利でしょう。ブラジルとかメキシコとか皆高金利でまいたんだ。韓国だってまいていますよ。四三〇億ドルで一割以上の利子を払ったら、まいるに決まっている。同時に元金も返さなきゃならないから、北朝鮮に投資すると言ったって、北朝鮮はちゃんちゃんおかしうてしょうがない。こっから貸してやろうかというくらいなもんだ。そういう誤った報道が日本にあります。これ、よく皆さんに注意してもらいたいと思います。

私にはアメリカにも仲の良い友人がたくさんいます。レーガンは大嫌いだ。友達も多くは、民主党のハト派だね。それから共和党にもいるよ。ハトフィードなんていうのはなかなか良い人物ですよ。日中関係改善の前に米中関係の改善をしないと、日中が仲良くなれば日米関係なんてどうでもいいなんて言ったら米国は震えちゃうからね。私は日米関係も維持しながら米中関係を改善しようと思ったから、日中関係改善の前にサンタバーバラ会議というのを、ニクソンが大統領になったとき、一九六九年に開いた。その会議の有力な賛成者になったのがハトフィードです。レーガンなんかよりよっぽど立派な人物だ。だからハトフィードを大統領にすればいいんです。それは世界にとってもずっといい。彼はレーガンの野党で、クリスチャンで、立派な人物です。そういう人物は共和党にもいるし民主党にもいる。

これからの世界はもはや人類の時代だね。どこの社会主義がいいの、どこの資本主義が悪いのという時代じゃない。つまり人類の平和と繁栄にとつてどの人間がいいかという問題です。宗派とかイデオロギーとか民族とか、そんなことはどうでもいいんだ。本当は、この人物は人類のためにいいか悪いかという判断をすぐできなきゃだめですね。そういう訓練をしなきゃいけません。河上先生はそういうことができた人じゃないかと思う。しまいは少しマルクス主義の公式に没入した点はありません。

すが。

この席に経済学者がいらっしゃるかどうかわかんけれど、今の経済学、アメリカの経済学、皆悪いね。これは話にならん。今の経済の基本的問題というのは軍事費の問題です。今世界の軍事費はどのくらいになっていると思いますか。このことについては私よりも福田赳夫の方がよっぽど深く研究している。福田赳夫は私の同志なんだから、日本の政界もこれから変わってきていますよ。大蔵省出身の彼は財政家ですから、経済もよくわかる。彼は「今のように巨額の軍事支出を出したら、世界の経済がもたん」と言う。世界経済の根本的な問題は、いまの軍拡をどこで止めるか、どれだけ縮少していくかということにある。福田赳夫という政治家がそんなことを言っているのに、経済学者は……。(笑) アメリカでそのことをちゃんと言っているのは、ハーバードの名誉教授をしているガルブレスくらいのもので、ほかのものは言わん。どうかしていませんよ。

今の世界の基本的な問題は軍拡と軍事費の問題だ。これらによってつくられたものは、食えもしない、着れもしない、住めもしない。そういうものに世界の財政の相当な部分——福田赳夫に言わせると、八〇〇億ドルと言っていますね。それが消費されている。八〇〇億ドルというのは、世界の総貿易額の半分以上ですよ。それがそんな方面に使われていて、経済がよくなるはずがない。そういうことについて、経済学者は何も言わないで平気でいるんだ。私はおかしいと思うね。そこら辺を河上門下の人々はしっかりして、現在の世界の諸問題はそういうところにあるということをお命がけではっきりと主張していかなくちゃ。それは当り前のことであり、真実なんだから。

真理を言うときは多少命がけにならないといけない。場合によっては就職できないとか、出世ができないとか。場合によってはお金を借り

られないとか、商売でいじめられるとか。そんなことを超越して、こういう時代はみんな真実を語らなければ駄目なんだ。河上肇という人こそれを实践した人だった。

私は長い間、自民党の中にいろいろなやつたんだけど、絶望して脱党した。ところが自民党はだんだんよくなっているようだ。福田がそんなことを言っていた。「軍縮資料」には前総理の三木や福田が原稿を書いてくれた。今日大門君に、この雑誌をなるべく買ってくださいうことを頼んだわけです。つまりこれがうんと売れるようになれば、世の中はよくなる。この出版は初めから損をしてやっている。出版するだけで、一〇〇万円以上かかります。たいしたことはないけれど、原稿料もちゃんと払う。「軍縮」という文字を国民が忘れちゃいけない。だから朝日、読売と新聞に広告を出す。あれが大変なんです。私はたまたま若い時代に金もうけて土地を買ったから、このたび土地を売って紙面を買う。そりゃ一七〇〇万円という大きな紙面を買うこともあります。今小さい紙面を買っている。読売はタカ派みたいなことを言っているけれど、私らが教育した者がおるから、一〇〇万円で広告をしてくれる。

朝日は一二〇万。毎月は一萬安いんだが、全部でとにかく毎月三〇〇、四〇〇万円かかります。わけのわからん雑誌の広告がたくさん出て、国民の精神状態をどのくらい損じているかわからないから、この軍拡の時代に軍縮を志してやっている者があるということをきちっと広告で示すためにお金を使ってやっているのです。だからこの「軍縮問題資料」を皆さんかわいがってください。お願いします。(拍手)

われわれは昭和三年に京都大学に入り、大門君なんかと一緒にいろいろなことをやった。あの時代も一つの危機の時代だったが、今また危機の時代であります。あのとき、飯田なんて特高に名前を覚えられて、ひどい目に会った。祇園が先斗町へ行って遊んでいりゃよかったと思った

こともあるが、今になるとやっぱりあの方がよかった。危機の時代に体当りした方が青年とかまともな男の対応の仕方——女でもそうだと思うけれど、そういう対応の仕方というものが身につく。こんなことがあったね。大門が連れていかれてしまったので、私は怒って川端晋に抗議にいった。そしたらそのまま捕まっちゃった。(笑)こっちは正しいことをしていると思っているのだが、「こんな正しい奴を捕まえるなんてけしからん」と、薄馬鹿だから単身乗り込んだら、「ちょうどよかった、ちょっと入ってくれ」と。

皆さんいろいろ考えてみると、現在はやっぱり世界の危機ですよ。あのときは日本の軍国主義が恥をかく程度で済んだ。広島や長崎に原爆投下という事件があったが、今度は人類の危機だからね。日本人だけの危機じゃない。

私は今度金日成に、反核反戦の二十二人委員会の決議文を持っていっただんです。二十二人委員会には、三木や鈴木善幸も入っています。その決議文をちゃんと朝鮮語に訳して渡したら、金日成が一字一句賛成だと言った。金日成と私が合っている点は、最初会ったときから彼は軍縮論者なんです。あの国で経済建設をしようと思ったら、兵隊にむやみな人数をとられたら、実際はやれないのです。韓国の人口が約四〇〇〇万人。北朝鮮の人口は二〇〇〇万弱。これは本音だなと思ったのは、北側は韓国の軍拡路線はやりきれんと言っているのです。向こうは人口が多いからいいけれど、こっちは一生懸命経済建設をしているのに、若い丈夫な頭も悪くない者を軍隊にとらなきゃならない。工業と農業とから優秀な労働力を吸収しなきゃならない。だからやりきれないと言っていましたよ。南北相互軍縮をやるべきだと、この十年ぐらい金日成は言っていた。南も十万、北も十万くらいにして、相手が日本だから余りはつきりとは言わなかったけれど、要するに南北国境の方に分かれて二十万でいいと

言う。いまは両方で陸軍に一〇〇万以上もいるのだから、とても養えないですよ。それを日本やアメリカが援助してやっている。前にもいった通り北の方は借金なしでよくやっています。物理的な戦力で比較したら南の方が上です。アメリカの援助を除いても。だから北側には警戒心があるわけだ。だが最近、北側は非常に平和に対してある意味で楽観的になっている。なぜかというところ、レーガンといえども戦争はできないということがだんだん解ってきているからだ。私が「核戦争になったら困るのじゃないか」と言ったら、「われわれは平和を守るつもりだ。二つの手が合わなければ、音は出ない」なんて禅坊主みたいなことを言って、「向こうが幾ら騒いでもこっちは静かであれば音はでない」と、不戦を強調していた。恐らくそうでしょう。音が出れば大変だから。

レーガンは軍事予算ばかりふやしているけれど、軍事予算をふやすということが世界の民主主義にとっては不幸です。そんなもの食えない、着れない、住めない。そういう金があったら、世界でやるべきことがたくさんありますよ。われわれ日本人もはや人類の立場に立って、何が正義であるかということをしつちりと決めて、ちゃんと進まなきゃいかん。社会主義だ、資本主義だ、何主義だという時代ではなく、人類のために本当に考える政治かどうか。そういう問題だと私は思います。いわば人類主義。

先に金日成が言っていると紹介しましたが、皆に飯も食わさないような社会主義や共産主義ではしょうがないから、一生懸命水利政策をやってきた。私は何回も見てくるから、八一年と今との比較で言っているんだけど、確かに北朝鮮はよくなっています。これだけは間違いない。八一年に訪朝した時、私が一番不安に思ったのは、アパートがたぐささん建っていることだ。南平壤なんかはまだ部屋にも何にもなっていないのがむやみに建っている。私も疑い深いから、戦争というものを恐怖して

いたら、アパートとか高層建築物はたくさん建てませんね。だからすべての建設を途中で停止しているようにそのとき思った。いま非常に危機が多いから止めたのか、あるいは建てるふりをして、ただ景気を煽っているのかも思っていた。今度行ったら、みんな建っている。南平壤市に、私がこれは危いなと思ったものが全部アパートになって、一番高いのは四十階。発展途上国の北朝鮮などでは2DKなら最上の筈です。ところが最近になると、4DK、5DKなんかを求めるものが多くなったと言っています。南平壤市のアパート群を見ると、まんざら嘘じゃない。市の真中に、十万くらい住まわせる大都市ができたわけです。大同江のすぐ向こうですよ。大きな町ができて、中央に大きな建物がある。そこで「あれは何だ」と聞いたら、一〇〇〇ベットぐらいある産婦人科病院だという。人口が少ないから、人間をふやすことに強い必要を感じている。

今日の会の皆さんは、河上先生の縁によって集まっておられるわけです。けれども河上先生が大学をやめられるあの頃の風景、このまじや今の風景と似ていますよ。ただあのときは日本というスケールの危機だけれど、今度は世界というスケールの危機。だが一人一人の心がしっかりしていれば、防げるんじゃないかな。なかなか権力というものは強いから難しいけれど、少なくとも政治家に要求するのは、「おまえらしいろいろなうまいこと言うけれど、まず核戦争だけは防げ」と。核戦争になったら、何をうまいこと言っても全部なくなるじゃないか。戦争は天災じゃない。今度起る戦争は今まであったあらゆる天災よりも大きい。これは政治が起すんだから。そういうことだけは皆さん、政治家によく言っていたかと思うのです。「おまえら大変な悪魔になる可能性があるがあるのだから、しっかりしろ」と言っていたかと思う。だんだんそういうことがわかってきている政治家も多くなっています。

ただ財界の一部に、とにかく自分の経営を大きくするためには兵器を売りたいという奴がいる。アメリカにもいるし、日本にもいる。兵器というものの特徴は、各国が絶えず進歩したものを求め合っているということである。兵器の進歩、技術的なノウハウが全部軍事機密です。軍事機密と結びついているから、権力と結びつく。そしてえらい金儲けができる。レーガンなんて、そうい

う軍事的ノウハウで儲けた金で養われているのだから、私はあんまり好きじゃない。これは何もマルクス主義で言っているわけでも何でもない。しかし日本人がレーガンを好くか好かないかということは重要ですよ。ソ連にもレーガンに似たのがいる。しかしソ連には私企業がないからね。いまの状態で資本主義国と社会主義国とがあれば、資本主義の方が金儲けと結びついているだけに細かくちよこちよこ戦争の方に推進する力がありますね。社会主義の方は、軍事的な指導者が名譽を得たいとか、勲章を得たいとかはあるが、企業家が戦争をする動機というのは比較的資本主義より少ないからね。そこで資本主義の方は、



2・11 岩国市民の集い

主権・国境と宗教の
衝突を告げる映画市
民公開

記念講演 河上肇と現代

[illegible]

国地区労働組合協
議会、日本社会党
岩国支部、日本共
産党山口県東部地
区委員会、キリス
ト者平和の会、岩
国へいわ村の共催
による「集い」で
あり、岩国市民会
館で開かれた。講

昨（一九八四）年の二月十一日に、河上肇生誕の地、岩国市において山口大学教授 山田洗氏の「河上肇と現代」という講演がおこなわれた。この講演は、「思想と信教の自由を守る2・11岩国市民の集い」に記念講演としておこなわれたものである。集会およびかけのピラによると、岩

河上肇關係記事
I

軍事的ノウハウで儲けようという奴を抑えるだけの力と良識を持たなければいかん。特に財界が良識を持たなきゃいかん。経済学が良識を持たなきゃいかんということを申し上げたいと思います。

今日は勝手なことを申し上げましたけれども、久振りで河上先生と志を同じくする人々にお目にかかりまして、今河上先生が生きておられ、われわれが待望するような河上先生であつたらならば、私と同じことを言われたのではないかという自信を持って申し上げた次第でございます（拍手）。

2.11
建国記念日反対
岩国集会

2月11日(土)PM1:30
市民会館研修室

[illegible]

講演「河上肇と現代」
——郷土の生んだ偉大な思想家河上肇の足跡
を辿り現代の高義をたずねる——
講師 山田 光（山口大学教授）

人・岩国地区労働組合連合会
 共・日本社会党岩国支部
 産・日本共産党山口県岩国地区委員会
 ・キリスト教平和の会
 ・岩国へいり町会

師の山田教授は、「河上肇」、「近代日本倫理思想史」など河上研究の著作もあり、郷土の生んだ偉大な思想家河上肇の足跡をたどり現代的意義をたずねられた。しかもこの集会は「2・11建国記念日反対」とその意味を問うこと、同時にこの講演がおこなわれたことは意義深い。

表紙写真 法然院入口

……法然院のことは、お宅に泊めて頂いた折にお話したと思いますが、今度行って見ますと、何も彼も三十五年前に始めて見た時と全然同じなので、実に此の上もなく満足いたしました。

(畑田朝治宛書簡)

総会出席(予定)者の通信

。大学入学が決った年の春のお彼岸の頃、始めて法然院の河上先生のお墓にお参りしたことが縁で、安井さんご夫妻、河上肇記念会とのご縁にまで恵まれて、はや四年。今年は社会運動をテーマとする、卒論に追われる身となりました。河上肇自叙伝等に啓発され、現在、市民運動にもかかわっております。この度は、私からの希望もあり、母が八四年総会に参加させていただきます。(兵庫県宝塚市 池上雅子)



。平素はなにかとお世話様になりありがたく御礼申し上げます。去る九月一六日、電源開発公社広報室勤務の友人、上洛の機会に、是非河上先生の墓に詣でたいとのことと案内、大変喜んでくれました。(以前、法然院に詣でたが、先生の墓がわからなかった由)なお、名刺受の竹筒の蓋が紛失しておりましたのが、気になります。

会報前号にて、元高知大学長、山岡先生(農業経済)もしばしば、墓参されておられる由、京大での弟子達の「山

雪会」の会員の一人として懐しく存じました。毎号の会報楽しみにしており、編集諸子のご苦労、ありがたく存じます。(大阪府枚方市 佐田季男)

。皆様、立派な方ばかりのようで、貧生気恥しいが出てみたいなら、世代と世界を知りたいなら、と思います。その日の健康次第故、未定としました。

大正一三、一四年?の改造誌上での河上肇 vs 福田徳三の討論に一五、一六才の私の目がすいつけられて、以来六〇年。馬令を重ね、なお忘れ難い、その名、そのことです。(大阪市城東区 平岡正三)

。一年間、軽躁にも似て、せわしく過しておりますと、秋にめぐって来る、この河上先生の墓前会が懐しくなります。

河上先生の聲に接したことはもとよりなく、経済学の徒でもありませんが、いろんな意味で、大先達と仰いでいます。年一回、この大先達を光として自己の闇を照らす機会を与えていたゞいて感謝しています。今後ともよろしく願います。(滋賀県伊香郡高月町 小野忠人)

。草津の里で、脳血栓症のリハビリのため、庭仕事に半日をついやしています。同時に新聞の切り抜きも日課の一つで、経済記事を中心に、これはもう十数年つづいています。

仕事も終り、子育ても済み夕陽を見る

(滋賀県草津市 田中米一)

。小生、書物(それもわずかな数です)で河上先生の高い人格に尊敬の気持ちから、お墓におまいりして入会した者ですが、末席をけがさせていただきます。(神戸市北区 葉抱武三郎)

。河上肇の名と本に接したのは、たしか中学の三年生の時だった。世の中に存在する金持と貧乏人の意味を不確かながら会得した気持ちになっ

た。京都大学へはいった時には、もう河上先生はいなかった。マルクス・レーニンに導いてくれたことは間違いない。今の共産党が先生ほどの人間味を持っていたらと思う。(兵庫県伊丹市 中村欽吾)

『世界』十月号に「河上肇と佐々木惣一」両氏の人間交流が取り上げられています。河上博士の思想と学問に対する節操の美しさを貫いた生涯に、尊敬を深くするばかりです。私にとって、河上肇全集は生涯座右の書です。(愛媛県川之江市 千田晴之)

私は大正十一年、京大法学部に入學、大正十四年に卒業。京大講演部に入りましたが、河上肇先生と佐々木惣一先生は一年宛、講演部長をされたので、各自宅に伺い、なつかしく存じます。なお河上先生の経済原論の講義も聴講しました。(大阪府豊中市 井関安治)

第一期河上肇全集購読申し込みのさい、終巻まで生きていられるかなと思っておりましたが、本日、(一〇月二日)無事配本を受け、やれやれという思いです。第二期も引き続き購入いたしますが、すでに七才の誕生もすぎましたが、このようすなら、七八才の坂も上って行けそうであります。このさい、申し上げる次第ですが、先生と私とのえにしはささやかなのですが、私の今は亡き義兄、鮫島鱗太郎はかつて京大に職員として勤めていたことがあるらしく、先生とも面識があり、先生が京都の古田にお帰りになつてからは、主として姉が食物を時々、お届けに参っていたようで、床の間にかけていた軸は、先生の漢詩のご染筆であつたろうと思っています。義兄は当時、吉田泉殿町居住。私は先生に教えを受けたことはありませんが、二〇才台に、改訂社説刊の先生の大綱や基礎理論を読みましたので、言わば学恩を感じている次第です。(兵庫県西宮市 井上喜代松)

私は昭和二年四月京大経入學、五年卒ですから、河上先生最後の講義を聴いた、今では数少い生き残りの、しかし先生にとっては縁でもな

いであろうような学生の一人です。先生にとっても疾風怒濤の時代を直接の同志としてではなく、先生を最も尊敬し敬愛した、いわゆる、河上ファンとしては、最も熱烈なファンとして、半世紀を生きて来た今は八三才の、今後も、そうして生き続けようと思う老人です。

現在、郷里の四国、高松の一隅に、戦中、戦後の自分なりの波乱の生き様を経て安んずる日々を送っています。全集で知った先生の戦中、戦後のご様子を知るにつけ、一微のお助けも出来なかったことを、悔まれてなりません。先生の奥様、二人のお嬢様には吉田界限で見かけしたこともありましたが、小生は昭和十三年一〇月から、終戦まで、上海に在住したのですが、虹口の喫茶店で二人の幼なお嬢様連れの若い婦人を見かけた、その方が河上先生によく似ておられた。河上先生のお嬢様では、と思いましたが、まさか地下運動をしておられた芳子様であろうとは、当時思わなかった、その方が、全集を読んで、その頃、上海ご在住中であることを知り、あれはきつと芳子様であつたと、今は確信しています。(高知市 土居勇)

この度、河上肇記念会総会のご案内、ならびに会報一八号、お送りいただき拝見。昨年、初めて総会に出席させていただき、会員の皆様の河上先生についてのいろいろな感想など伺い、貴重な啓発を深くしありがたく存じました。今年も出来る限り、出席させていただきたいと存じております。その節はよろしく。

河上先生の経済原論の講義に出席したいばかりに、京都大学を志願して入學した次第です。一年間の先生の授業を通して、先生の深い学問に触れることが出来、そのことをいまも感謝しております。昭和の始め、先生が自分の学問のために大学を追放になりましたが、あの法経学部合同の大講堂における先生の訣別のご講演を今も忘れることが出来ません。物静かなる内に、燃えるような、烈々とした情熱を秘め

て説き去り説き来たり、講堂の学生、あたかも先生の講演に酔えるものの如く、駭一ツ立てる者なく、水を打ったように静寂に、先生のご講演を聞き入ったことであります。講演の最後に、先生は「私はこのたび、大学の椅子を追われて、その椅子を失いましたが、これからは皆さんから記念として贈られた椅子に、家庭の書斎で掛けながら、自分の眞理と信ずる学問を続けて行くつもりです。」との結びの言は、今も私の耳に焼きついていて心地です。実に素晴らしい大学者に会って、その学問上の薫陶を受けたことを、この上ない幸いと存じております。(北九州市八幡西区 増田孝)

。去年は時代祭とかち合つて宿がとれず、残念ながら欠席しました。今年はずいぶん参上し、川勝伝さんのご講話を拝聴いたしたいと思います。(横浜市戸塚区 田中文蔵)

。昨年、『河上肇全集』の紹介を、雑誌「エコノミスト」にしました。そのさい、登場いただいたのが川勝伝さんの南海電鉄会長でした。万青年の川勝伝さんの記念講演を楽しみにしています。(毎日新聞編集委員) (大阪市淀川区 小嶋康生)

。一九八四年度総会、ご案内で小生の講演とあるので、いささか、おそれをしてしています。

九月一八日から訪中、二三日に帰って参りましたので、河上先生をめぐる雑談とともに、最近の中国のご報告を申し上げたいと考えています。(大阪府高石市 川勝傳)

。碩学、大河内、大島、白石など諸先生の訃音、相継ぎ、痛惜に堪えません。小子等は、ただその著書によってのみ知るだけですが、大先輩の長逝は、今や巨星墜への感一入であります。その意味でも河上肇記念会が、今後益々発展されることを希求してやみません。(大阪府河内長野市 藤木福太郎)

。営利とか、政治とか云う目的を求める会とちがい、この会の特殊性からして、運営がむづかしいことでしょう。

住谷一彦様の「大島清先生を悼む」という追悼文を、しみじみ読ませていただきました。実は小生、東北大学での大島さんの後輩で、私が入学したとき、大島さんが三年生で、丁度、一年間指導を受けました。当時から、シャープな方で、私も社会政策論を専攻しておりまして、公私ともにお世話になりました。大島さんは、昭和一六年三月に卒業されましたが、その後、一度もお目にかかったことはありませんでしたが、戦後、年賀状の交換だけは続けておりました。今年五月一六日の新聞で大島さんの急死されたことを知りびっくりしました。心から冥福をお祈りいたします。また機会があれば、住谷さんにお目にかかり、大島さんのお話などを承りたく存じます。(大阪府豊中市 後藤嘉七)

。昨秋、欠席しましたので、今年は出席いたします。橋本峰雄先生の計を心から、悼み申し上げます。先生よりも十数才の老人が元気で生きているのにと残念です。来る一四日諸先生のお話を承わるのを楽しみにしておりますと共に、河上肇先生の墓前にお参りできるのを期待しております。内外情勢いよいよ疾風怒濤の折から、感慨一入のものがあります。御礼まで。(兵庫県姫路市 片山卓二)

。本年も河上肇記念会総会を迎え、求道者河上肇先生を偲ぶこと切なるものがある。それにしても大島清、森戸辰男、大河内一男などの諸先生、あいついでご逝去、河上先生関係者もとみに寂寥を覚えます。住谷悦治先生のご自愛を祈って止みません。(奈良県三郷町 山崎宗太郎)

。昨年は病氣入院中のため欠席しましたが、今年は出席させていただきます。と思っています。



河上肇音読会が九月二〇日(木)から五年目に入り、「河上肇『貧乏物語』と今日の国民生活」のテーマで、毎月一回、一年間のコースを開始します。ご支援下さるよう願います。

塩田庄兵衛編「河上肇『自叙伝』の世界」(法律文化社、杉原、住谷一彦、一海先生たち寄稿)作業進行中です。一〇月一四日に間に合わないらしいのが残念ですが……。 (京都市左京区 塩田庄兵衛)

。「音読会」五年目を迎え、九月二〇日に、約八〇人の出席を得て盛大に幕が開きました。当日は、あめんば座の西垣先生の「音読術入門」と同志社の住谷肇先生の「これからの福祉」の講演で、初めて参加した人も、この会のユニークさに大いに気をひかれた様子でした。定員(一〇〇名)まであと少し。毎月第三木曜日、午後六時半、京都教育文化センターで。ぜひ一度顔を出して下さい。悪しき現実主義、順応

主義のはびこるいま、「眞実の全貌を語るべし」の河上精神を、一人でも多くの人に伝えたく存じます。(大阪府寝屋川市 沖本彰)

。秋風がさわやかに吹きますと、京都で河上肇記念会総会が来るのだなと思います。河上肇全集も小生の勤務先の名城大学の研究室に並べていまして、時に拝読しています。小生の生家は広島島の爆心地で、いま平和公園になっていまして、夏になると「ヒロシマ」が小生の年中行事になっています。危機迫るこんにち、河上先生のごしのばれます。(大阪市東住吉区 秋本育夫)

。つねづねご連絡などご高配をいただき、まことにありがたう存じます。例年、この時期は学会と重って失礼すること多く、心苦しく思っておりましたが、今年は運よく出席出来そうなので、嬉しく思っております。著作集刊行の影響もあってか、河上先生のご思想に対する文化界の関心は年々高まりつつあるように感じられますので、心強き限りにて、ますますご盛会を願っております。(京都市左京区 池上惇)

。私はよそながらお語りしたく思っておりましたので、会員などとは少し気がひけますが、末席に坐らせていただきたく存じます。

会報の脇英夫様と亡くなった曾我とはおつき合いがあり、なつかしく拝見いたしました。(神戸市垂水区 曾我より)

。拙稿、「郷里における河上先生」に続く旧宅訪問報告は、先日お送りしましたが、一足遅れまして申し訳ありません。一〇月一四日当日は、山口県合唱連盟の歳末第九交響曲練習日にあたり、重なりましたが、かねてからの出席予定であり、初めてのことであるので、出席いたしますのでよろしく。(四年前からコーラス練習を始めています。お笑い下さい)

八月に英国へ参り、一〇日はど滞在しましたが、これを機に英国資本主義の発達と貧困史、民主主義の歴史、とりわけフェビアン社会主義

を見直す意味で、研究致したいと考えています。河上先生の社会主義の原点もそこにあつたと考えています。(山口県徳山市 脇 英夫)

。昨秋は教え子の結婚式(新郎、新婦共関大大学院での教え子)とちょうど重って失礼せざるを得ませんでした。今秋は幸、都合よく出席できることを喜んでおりますが、去る九月一七日(月)には京都西陣に近い大雄寺での山中貞雄忌(四六回)法要と有志の集まりに出席しました。戦前の天才的名映画監督(「人情紙風船」、「河内山宗俊」、「丹下左膳、百万両の壺」等)山中貞雄は戦時下応召して、中国大陸(徐州)で二九才の若さで戦死し、今はほとんど忘れられており、有志はこの機に河上先生のような催しを継続しようと申し合わせました。すでに、山中貞雄伝やシナリオ全集の出版も近く、また、山中を主人公とする伝記映画の製作企画も進み、山中貞雄の復権、復活のための努力が開花しようとしており、記念会と共通な縁と感ぜずには、いられない次第です。(大阪府吹田市 山下肇)

。広島県三原市在住の友人とともに出席したいと彼の便りを待っていました。出欠通知期限の今日まで連絡なく、通知がくれ申訳がありません。会報はいつもありがたく拝見し、自由、平和、反核への希望に勇気づけられています。総会もみなさんのひたむきな熱意にふれて決意を新たにすべく出席したいと思っています。ご盛会を祈ります。(京都市伏見区 山崎利一)

。家内同伴で出席します。臨時会費八〇〇〇円は当日支払いでよいのでしょうか?年会費いつまで払っているのか、滞納になっているのでしょうか?上記一〇月一四日当日支払いでよいでしたら、返事はいりません。その時、一括お払います。(大阪府吹田市 三浦卓郎)

事務局より

会費をいただいている状況など、六〇年新春号でそれぞれお伝えし

うと思っています。

臨時会費は、毎回、当日、受付でいただくことにしておりますが、その辺の案内は親切にするよう、心がけます。

総会当日、受付はいつも混雑し、領収証と出欠と金額を合わすのに、せい一杯です。事務局の私は東京の郊外から参加し、墓前には一、二時間前に詣りますが、法要に参列したことはありません。総会そのものの以外の事務処理能力はこれまでのところありません。

若い事務局員何人かで、総会の裏方を手伝っていたとける日が早く来るように、弱体の事務局、非力で申訳ありません。

。一〇月一四日の総会の日が秋晴れで、盛会であることを念じております。(兵庫県西宮市 杉原四郎)

。河上先生、奥様のお墓詣りと、会の末席に坐らせていただき、お話を伺うことをたのしみに致します。なお、当方一家族のものでございますので、麻生泰一、一名分だけで、けっこうでございます。

大門英太郎様はじめ皆様にお目にかかれるのを楽しみにしております。

(福岡市早良区 麻生泰一、正子)

。出席ははじめてですが、喜んで参加し、皆様方のお話を伺いたく思っております。よろしくお願い致します。(大阪府堺市 小田正大)

。出席か、欠席か、いかがすべきかと案じていましたが、思いきって、

出席の返事をさせてもらいます。今年、初めて入会させていただいたばかりで、記念会のようなすや、総会の勝手かわからず、まして同伴する人としてなく、手持無沙汰の感もありますが、どうぞよろしくお願い致します。同封のコピー、拙文ですが、八月下旬、京都新聞に投じたものです。私の河上肇先生への思い、のために同封いたします。一〇月一四日たのしみにしています。(大阪府高槻市 紀平龍雄)

。昨今やっと秋らしくなりました。おかげさまで私も元気にしております。

すので、何卒、ご休心下さいませ。(京都市左京区 梶野千代)

。毎度お世話を賜り、まことにありがとうございます。本年も首を長くして、待っております。皆様のお元気なお姿を拝見致し、先生を、おしのび致したく存じます。今後ともよろしくご指導下さいませ。

(大阪府堺市 広岡正次)

。ご連絡、ありがとうございます。宇都宮先生、川勝会長もご出席とのこと、楽しみにしています。年々オタ花同じといいますが、人は次第に同じくなくというより去り逝きます。寂しいことですが仕方がありません。(京都府八幡市 林辰彦)

。さいわい、予約のない日曜日なので出席させていただきます。もう、大分前に総会に出席したのみで、音読会も欠席続きです。ハ〇才に近くなったので少し活動力が鈍ったのかと思ったりしています。年の割に暇な時間が少ないこともあります。僧職は死ぬまで現職のままで、続くことが理由ですが、それも避けたいためにはよいことかと思っています。そして死ぬまで修業であることを忘れないようにと考えています。(京都市上京区 細井友智)

。河上先生はマルクス主義者には違いないが、その内奥の本心など誰も見通し得ないにしても「科学的真理」(河上先生ではマルクス主義)と「宗教的真理」(私の考えは眞実と言うべきであるが)とを如何にして統一的に理解するかが、その終生の課題であったことは「自叙伝」によっても明白であって、誰も否定し得ない。単にマルクス主義の徒として捉え得ない偉大さが秘められているように思われるが、私の「買いかぶり」であろうか？先生の遺志によって「法然院」に葬られているが、何も「法然院の風景」に憧れたのではないであろうと思う。

「仏教」こそ「知恵」の宗教として「科学的真理」であると同時に「宗教的真理」であることに想到しながらも「思想表明」にいたらないま

ま、大往生されたのではなからうかと推測するのも、また楽しい追憶ではなからうか。もう一〇年も二〇年も生き長らえてほしかった。残念である。(東京都国分寺市 佐藤克己)

。いつもお世話様になります。河上肇の弟子共が今八〇になんなんとしています。だんだん欠けて行きます。

河上先生を含めて、われわれの一生が何であったのか、お互に遺言として、残したいことが沢山あるのではないでしょうか？そろそろ、その遺言をまとめておこうではありませんか。(兵庫県西宮市 松本広治)

事務局より

ぜひ、そうしていただきたいものです。そろそろなど言わずに、急いでお願したいものです。月日に関守なし、と申します。遺言をまとめて、更に命を得て、遺言の不備や誤りに気付けば、また、訂正することも出来ます。来年の会報には、「私の遺言」の特集を特別号として組めるように、多数のご投稿をお願いしたいと存じます。

。一、今年はずい、出席しようと思ひます。一三日夜、京都に行き一泊する予定です。

二、京都には同じ時期に活動した友人が沢山いるはずですが、残念ながらほとんど誰とも連絡がありません。山田幸次、岩本孝雄、川橋一郎、蜂須賀健吉の各氏、どこにどうしておられるのか、消息を知りたいものです。河上会の会員名簿などありましたら、おわけ願えませんか？

三、それから大門さんの方で「河上会においては、各自の政治的立場による対立を持ち込んではいけない」ということを強くご指導になっていただきたい。(東京都渋谷区 亀山幸三)

八四年河上肇記念会、総会、出席者名簿（敬称略）

相澤実子、秋本育夫、麻生泰一、麻生正子、池上惇、池上麗子、井関安治、一海知義、井上喜代松、色川幸太郎、岩城牧、内野治幸、沖本彰、小田正大、小野忠人、大久保雅博、生沼曹喜、梶野千代、片山卓二、龜山幸三、川勝博、カニエ邦彦、紀平龍雄、黒木経也、後藤嘉七、小嶋康生、小泉孝次、小泉仁一郎、佐藤克己、佐田孝男、塩田庄兵衛、塩谷寛二、杉原四郎、鈴木洵子、千田晴之、曾我まり、田中文蔵、竹中正治郎、柘植夫人、葉抱武三郎、長谷川俊雄、畑時夫、羽村しづ、林辰彦、広岡正次、福永照子、藤本福太郎、藤田整、細川元雄、松本栄、松本広治、松崎義夫、三浦卓郎、同夫人、三木勲、山崎宗太郎、山崎利一、山下孝次郎、脇英夫、黒田熾、大門英太郎、宇都宮徳馬
以上六二名



会員通信

一、ご逝去をいたみます

毎々、会報ご送付いただきありがとうございます。会費なおざりに致しまして申し訳ございません。当方、南吉一儀、去る七月一日、心不全にて永眠致しました。まことに急なことに……。去月、満中院もすまし、やっと少し心静まった処でございます。生前のご厚情を謝し、謹んでご通知申し上げます。別便にて些少ながら、会費の一部にもお当て下さいますように、お送りしました。ご受納下さいませ。（西宮市 南やすこ）

二、大島清未亡人より

庭の萩の花も咲き、やっと秋らしい季節となりました。その後もお変わりもなくお元気のことと存じます。主人逝去のさいは色々配慮いただきありがとうございます。また、このたびは河上肇記念会会報に故人追悼文をいただき、お礼申し上げます。住谷先生のお言葉は生前の主人の姿を絵のようにみごとに書き出されており、ほんとうに嬉しく読ませていただきました。朝晩、秋冷えのする昨今、くれぐれも御身お大切になさって下さい。かしこ、大島百合子

追伸

同封しましたわずかなもの、私の気持ばかりのお礼として河上会の方に差し上げて下さいませ。また、もし会報No一八の余裕がありましたら一〇〇二〇でもお送り下されば、幸と存じます。東京の知人にも読んでいただきたいと思います。（以上、代表世話人 杉原四郎宛）

三、前代表世話人住谷悦治先生近況

暑さも去って秋を感じるようになりました。このたびは遠路、父をお見舞いいただき、ありがとうございます。美しい花と老人向きの菓子をいただき、病室も一段と華やかになり、食後のデザートも出来て、感謝のほかございません。ご芳情のほど厚く御礼申し上げます。またお便りまでいただいて恐縮に存じます。父はご覧の通りの状態です。入院して早や一年の月日が経ちました。血色もよくなり、食欲もあって、頭の方はまことに頼りない次第ですが、生命力の方はまだまだ旺盛のようです。短い会話ならば可能です。親切な病院なので安心してあります。冷暖房もうまく出来ています。今の状態を維持出来れば幸いだと思っています。今後ともよろしくお願い申し上げます。住谷馨（以上大門英太郎宛）

四、

残暑の候となりましたが、益々ご活躍のことと信じます。一〇月一日は川勝先生が見える由、ぜひ伺いたいと思っています。野口務君も来るように念願しています。いずれまた。（和歌山市 三木勲 大門英太郎宛）

五、総会のために

拝啓、秋冷の好季節となりました。お元氣のことと賀し上げます。さて一〇月一四日法然院にて河上会総会挙行の由、ご通知をいただき欣快に存じます。ついでには別紙拙文五〇部印刷いたし、河上肇記念会宛送付致しますので、当日参会者にご配布賜わりたく、お手数ながらお願い申し上げます。お互に寄る年波、精々ご自重、ご自愛のほどお祈り申し上げます。敬具（愛知県 岡崎市 安藤重次）（大門英太郎宛）

六、転居

前略、今年四月から熊本市より福岡市へ転居致しましたのでお報らせします。

河上博士の経歴で平素から疑問に思っていることが一つあります。そ

れは出身中学が岩国中学の五年卒となっていますが、当時は三年以上は山口中学（本校）に全部集まり、豊浦、萩、徳山、岩国の四中学は分校のような形をなしていたと聞いています。なお、小生山口中のずっと後の卒業生ですが、河上博士が山口中の卒業生の名簿に載っていましたし、今は焼失しましたが旧山口中の記念館に河上博士の休暇願（？）が残っていたようです。またその後の山口高等学校（高等中学？）は旧制山口高校で、山口大文学部と改まったものなのか、私立山口高等中学（毛利家の費用でナンバー・スクールに対応して作ったもので、途中、廃止されて山口高商へ転換したもの）なのか少々疑問に思っています。以上（福岡市南区 阿波 保壽）

編集員記 第二期刊行（一九八五年二月）の『自叙伝 上』（勿論現

存刊行されている文庫版にもありますが）の「幼年時代、少年時代」の章に詳しい記述がありますので参照下さい。

住所変更しました。よろしく。（愛媛県松山市 井手良）

住所変更につき、よろしく。（東京都国分寺市 種瀬茂）

七、近況など

頭部外症後遺症の執筆で絶筆も近いと思ひまして、隔絶のご挨拶をおくります。脳障害の臨床の無念は人間への課題のいかに至難のものであったか、恵まれし家永三郎教授の諦観が身体にしみみます。（名古屋市南区 山口幸一）

老来、奉仕活動で閑なく、お目にかかれる機会がなく残念です。そのうちに機を見て参会します。まずはお元氣で頑張ってください。（和歌山市 三木勲）

会の運営、お世話につきましても感謝しております。フリーの立場をお互に尊重しつつ、反戦、反核、平和の一翼をになえればと念願

しています。(京都市伏見区 山崎利一)

私は昭和二年京大経済学部に入學しましたが、当時、河上先生が中心になって経済学批判会があり、堀先生の研究発表があり、佐藤、田村、末川も研究発表され、活発に活動しておりました。河上先生の福本批判もこの例会で行われたものであります。この会の足跡は大きな意味を持っていると思われまので、詳しい記録をお知らせいただければ幸いです。

(東京都練馬区 生沼曹喜)

欠席会員であるうえ、会費支払も変則的で申し訳ありません。現在大学四年で、卒論テーマは社会運動です。生半可な観念論では片付かない問題が多く、それだけに、サークルで友人達とマルクスの著作を、頭を悩ませつつ読み進んでいます。編集委員の皆様、またこれまでいろいろお世話になりました安井功様、本当にご苦労様でした。(東京都町田市 池上雅子)

編集員記

数年前は父上が、また今年は母上が総会にお見えになり、

特異な、義しいスタイルのご一家だと思ひ、あなたのよう

会員が増えて下さることを念願しております。

河上肇に出会ったのは、ぼくの一生にとって非常に大きな意味をもちました。全集を「購読」ではなく「購入」していますが、そのうちじっくり読むつもりです。京都へ出張のさいに、法然院を再訪したいと考えています。(東京都世田谷区 山崎弘)

おそくなりました。すみません。去る五月から入院の身で九月、十月中には退院と思いますが、ハッキリわかりません。今年こそは法然院詣と楽しみにしておりますが、どうなりますか、会の発展を心から祈ります。七三馬令老人(福岡市 井上英三)

会報一七号拝受。まだ会費納入の余力あり、ご送金申し上げます。大橋隆憲先生追悼文集の「天空雲鳥飛」の題字の由来について、足羽徳氏

の一〇三頁の解説がありますけど、元来この辞は財部静治先生の彦根城玄宮庵にての丹作に由来することを申添えておきます。(広島市 青盛和雄)

会費おくれですみません。マルクス主義の流れを戦前の弾圧、戦後のマル経研究の花ざかり、そして今、と考えています。大月、青木書店の経営状況を聞くにつけ、若い層の書籍ばなれを嘆いています。若い人に日本のマルクス主義研究の先鞭であった河上肇の業績を考えてもらいたい。会員は若人の入会に努力してほしい。私は東北に住んで何も出来ませんが、息子は入会させました。在京阪の方々の尽力を思います。(秋田県横手市 和泉とく)

老生、今夏、六月一三日にて満八七才になりました。老来、幸に元気にやっていますから、ご安心のほどを。今年の賀状にて先生より亡妻の物故にふれ、いつまでも愁嘆せず、いよいよ元氣なれと、ご褒詞を賜わり、深く感激。いつも感謝し奉っています。(徳島市 三村文一)

会報一六号ありがとう。興味深く拝見しました。(東京都練馬区 中村浩)

会報をお送り下さいまして有難う存じます。いろいろの企画にも参加させていただきたい気持ちで一ぱいですが、現在、仕事を持っておりまして思うにまかせません。おくれればせながら、会費を送らせていただきます。よろしく。(京都市右京区 金久ぬい)

暑中お伺ひ申し上げます。貴兄におかれては、河上会などで多用の次第と拝察いたし敬意を表する次第です。これより先「会報」一六号いただいております。なご別便、会費六〇年、六一年をお送りいたしました。小生の学校は夏休み(七月二一日〜九月二〇日)に入り、まず無事にやっております。(埼玉県浦和市 小倉倉一)(大門英太郎宛)

健康の理由、その他でいつまで会費を納入したか、失念しております

ので、とりあえず二ヶ年分お送りします。もし間違っていたら、ご一報いただければ幸です。(岸和田市 藤基長晃)

会報一六号ありがとうございます。去年の会費が未納だったのではないかと思われまので、本年度分と合わせてお送り致します。もし重複のさいは、そのまゝ寄付扱いにでもしてくださいとされれば結構です。ずばらなことで申し訳ありません。(東京都杉並区 杉本正二)

もし過去に未納年がありましたら、ご面倒ながら、ご一報下さい。また会報バック・ナンバーを揃えたいと思いますのでお送りいただけませんか？費用は折返しお送り申し上げます。住所変更。(東京都多摩市 鈴木邦夫)

会費の金額がわかりませんので、とりあえず一万円お送りします。よろしく願います。(大阪府枚方市 熊谷尚之)

事務局より

会費は年三〇〇〇円です。会費が過納になった分は翌年の会費に充当させていただきます。その年の会費をいただいた方には封筒の表に、五九年度会費いただきましたと明記し、振替用紙は入れないように致しております。本年度、会費が還納になって六〇年度会費に充当させていただいた方には、六〇年の新春号の封筒の表に、六〇年度会費いただきましたと明記して、おわかりいただけるように致します。さて、

藤本長晃様、五九年度、六〇年度をいただいたことで処理済です。

杉本正二様、五九年度、六〇年度をいただいたことで処理済です。

鈴木邦夫様、バック・ナンバーは大門さんから送っていただきました。熊谷尚之様、五八年度はいただいておられますので、五九年度、六〇年

度、六一年度に充当させていただきます。つまり来年と来来年の分まで会費はいただいたこととし、なお残る

千円はご寄付いただいたこととして処理させていただきます。お許し願います。

今年度会費おくれげながら、お送りいたします。会報一七号愉しく拝見しました。ご苦勞様でした。(兵庫県西宮市 杉原四郎)

前略、いつも会報をお送りいただきありがとうございます。さて、会報が近頃、いつも二通ときます。私の字がよめなかったのかと存じますが、お確かめ下さい。右よろしくおねがいたします。(京都市左京区 坂東昌子)

事務局より

ご注意ありがとうございます。文字よみがえ、二ヶ所に記されていきました。こういう問題をさけるためにも、コンピューターに入れ、ゆうびん番号順の整理をしてみなければと準備をすすめていますが、しよせん、コンピューターは機械ですから、もとの情報のたしかさが大切で、また移転なども、たんねんに追っかける必要があります。

前略ご免下さい。会報のバック・ナンバー入用の件ですが、全部、ご送付いただけませんか。お手紙ですが、よろしく願ひ申し上げます。(熊本市 上妻四郎)

八、退会

事情により退会させていただきます。(京都市右京区 古川勝弘)
一身上の都合で退会いたします。(広島県福山市 長谷川隆彦)

都合により退会いたしました。貴会の発展を祈ります。

(福島市 相沢与一)

初めの送金を寄付金のつもりでした。筆不精なものですから、ついつい云いそびれて……。以後、退会扱いにして下さい。河上先生を、共に語る友は死に絶えて、一人だけになりました。(青森市 斎藤清英)
前略、もう三年ぐらい前のことと思いますが、東京の講演会に出席し

本を買いました。しかし、入会を申込んだ記憶はありません。たしか、昨年、会員名簿に名前がのっていたので、すぐ取消しを申込むつもりで手紙を書きかけ、急がしきにとりまぎれそのままになってしまいました。改めて削除、訂正をお願いします。今後、会報はお送りにならないで下さい。なお、貴重な資料を何度もお送りいただいた分のお礼として、不十分と思いますが、気持だけ、ご送金します。(東京都府中市 伊藤正男)

私方は病氣(腦血栓)のため退去いたします。(福岡市 八田薫)
別便で申し上げましたが、これをもって退会いたしたいと存じますので何とぞよろしくお願い申し上げます。(奈良市 木村博一)

残暑お見舞申し上げます。「会報」第七号ありがとうございました。一海先生の「橋本峰雄師を悼む」のなかに創元社発行「仏教とマルクシズム」所収「河上肇における仏教と唯物論」という論文があるとのことですが、せめて橋本師の、この論文を読みたいので、この部分だけでもリプリントして載ければありがたいのですが。小生、若い頃、三枝氏、本庄可宗氏等の「戦闘的無神論者同盟」の会合にも出席し、今も手許にその機関紙(同名の)を所持しています。(東京都国分寺市 佐藤克己)

会員通信追加

。会報No17をお送り下さいましてありがとうございました。わずかですが会報の費用の一部としてカンパさせていただきます。(奈良市 繁田実造)

。以前、貴会よりおすすめていただきました「河上肇記念会」入会を今年こそは果したいと思いますので、振込用紙をお送り下さい。あわせて今年も総会が開かれるようでしたら、日時等お報らせ下さい。よろし

くお願い申し上げます。(山口県下関市 山本明文)
。とりあえず本年分として会費お送りします。(山口県下関市 山本文)

。ずっと以前からいろいろ送っていただいています。京大で河上先生の最後の講義を聴いた八二才の老翁です。若き日の羽村夫人、府立一女時代の芳子さんも見たことがあります。今秋は法然院の墓前祭にはぜひ参りたいと思っています。本年度の会費としてお送りします。

香川県高松市 土居勇

。Hier mitführe ich Ihnen meinen Beitrag von diesem Jahre ab.
Nachrichtungsroll. Ihr treuer Tsutomu Itoh

(岐阜市 伊東 勉)

無学者の事務局員を困らせないで下さい。拙訳を誤訳かも知れませんが、書いておきます。

こゝもと、きまりとして、今年の会費を送ります。いとうつとむ

。会費を送ります。会報一七号拝受。一気に読了いたしました。すべて感銘しましたが、なかんずく、岩波書店の米浜泰英殿の「河上肇編集室日記」には、頭が下がりました。そのご苦勞に対し、会員の一人として衷心より感謝申し上げます。(兵庫県西宮市 石井公代)

事務局より

「河上肇編集室日記」には続編があり、一七号に掲載したのは前半に当る部分なのですが、執筆者の米浜氏が「つまらぬもの」として掲載を拒絶されております。いろいろな理由で、河上に関する事実、河上との直接的な関係のあった事実、とくに河上の受容とそれにかゝわる事実が、闇に消えて行くことを悲しみます。「編集室日記、続編」の掲載に声援を送って下さい。

。今回、貴会に入会させていただきたく、年会費をご送金申し上げます。

よろしく願います。(兵庫県芦屋市 香川尚道)

。会費送りました。よろしく。(三重県上野市 沢田嘉夫)

。毎度お世話になります。八四年度会費ご送金しますから、ご査収下さい。(和歌山県有田郡広川町 柳沢泰助)

。一九八四年度総会は参上します。散会后、お時間のある人々に法然院をご案内しようと思っています。義弟、大塚有章先生、河上肇先生書の河田嗣郎先生の墓などを、雑学語り。(京都市山科区 安井功)

。残暑お見舞い申し上げます。

。今夏は猛暑でございましたが、皆様にはますます、ご清祥のことと、拝察しております。このたび私は学術振興会の「国際共同研究」により、この九月一五日より来年三月一五日まで半年間、西ドイツ、ボン市郊外の農村調査に出かけることになりました。

。生来の筆不精に加え、更に輪をかけて無沙汰と相成るかとも思われますが、ご海客のほどお願い申し上げます。なお半年間の滞在は、ボン市でございますので、当地においでになる機会がございましたらどうぞお立ち寄り下さい。末筆ながら皆様のご健勝をお祈り致します。

(住谷一彦 東京河上会代表幹事)

。住所が表記に変わっています。次回から新住所へ郵送願います。(高知市 藤岡純一)

。昨秋一〇月一五日、夫、日比憲一(京大白川会会員、六高卒)永眠致しましたので、ご通知申し上げます。永い間お世話になりましたこと、ありがたく、厚く御礼申し上げます。今までとりまき、会費を失礼致しているかも知れませんが、表記にて何卒あしからず、ご諒承下さいませ。会のご発展をお祈り申し上げます。(岐阜県不破郡垂井町 日比とく)

事務局より一、

多額のご芳志ありがとうございました。あつく御礼申し上げます。

事務局より二、

。以前にもお願い致したことです。故人の追悼文をお寄せ下さい。故人は白川会の会員だった由、私は始めて知りました。当会には白川会の会員の方々がお見えと思います。ぜひ、お願い申し上げます。

。多分二年分ぐらい滞納になっているかと思しますので、とりあえず、お送りします。(東京都小平市 渋谷将)

。先般、会報一八号に貴方のご寄稿なされた「大河内一男先生を偲ぶ」を感慨深く拝読しました。掲載されていました安井功氏撮影の大河内先生のお姿とを重ね合わせて、なつかしくなりました。去る九月二六日は先生の四九忌(大河内先生は無宗派です)に当り、小生、江原のご自宅を訪ね、霊前に香をささげて参り、奥様と約四時間にわたり時々訪ねられる客と生前の想い出話をしました。

。その節、会報についても話題となり、新幹線の車中で立ち話の項で、私たち側からみた先生の「気質」にあらためて頭をたれる思いでした。小生の勝手など依頼にも拘らず、スナップ写真、三葉をホテルまでわざわざ、お届けいただき、ありがとうございました。他社にて会議中でありましたので、お届けいただきました女性の方に、お茶も差上げられずに失礼致しました。お礼の意をお伝え下さい。スナップ写真は、可及的すみやかに奥様にお届け致します。

。さて、本年の河上肇記念会総会でございますが、当日は連合通信社の全国理事総会から他所に移動する日に重合しておりますので、残念ながら失礼させていただきます。総会後に京都に会議が計画されておりますので、その節、参りをさせていただきます。ご参合の皆様によりしくお伝え下さい。塩田庄兵衛先生がご出席でしたならば、小生がよろしく、とご伝言願いたく存じます。秋田にて。大門英太郎宛、

編集後記

河上肇関係記事 Ⅱ

山口における展覧会

昨年六月二日から七月一日、山口県主催の「山口県庁舎竣工記念展 山口県百年の先覚者」が山口県立山口博物館にて開かれた。明治維新、さらに近代国家建設に、また経済界、学術文化で日本全体に影響を与えた山口県出身者の資料が展示された。吉田松陰をはじめ「近代国家を目ざした人々」、伊藤博文など七人の宰相などと並んで「文化人の群像」には河上肇、末川博が入っている。展覧会目録として二名の先覚者略伝と年譜が掲載された。資料集め、展示に山口博物館員のご活躍がうかがえる。とくに河上肇記念会会員として四ページにわたる「河上肇——求道のマルクス主義者」、「末川博——未来を信じ未来に生きる」(六ページ分)の労作が興味深い。



昨年十二月、全集第Ⅱ期の最初の配本を受取る。「資本論入門」である。河上生前の出版、最後の著作であり、代表作の一つである。編集子にとっては、学生時代の愛読書、と言えば間違いはないが、あちこちにあった「資本論読書会」のトラの巻的存在であった。思い出の本とて、取り出してみると、青木文庫版全五分冊、購入書店の紙カバー付き、赤鉛筆の線引き、書き込み、背は全冊とも内にまがってしまっている。第一分冊の奥付は一九五一年である。

「……労働はまず第一に、人間と自然との間の一過程、すなわち、それにおいて人間が人間の自然との質料変換を彼自身の行為によって媒介し、規制し、且つ統制するところの一過程である。……」と『資本論』の章句、あるいは一節が音読され、音読者の説明、チューターの解説、参加者の討論など何故か遠い昔の思い出のように、教室、先生の研究室、友人たちとともに浮んで来る。今、大学で、職場でこのようなサークル活動があるのだろうか。

編集子は暮から正月にかけ、チューターの声(大学の先生であったり、友人であったり)を思い浮べながら、『資本論入門』を数夜かかって読み続けた。

本号は総会特集Ⅰとして二つの講演を掲載し、当日会員のスピーチを次号に載せることにした。大門翁の総会最初の挨拶にも加えられているように会員からの消息が大へん多数寄せられ——事務局は大へん喜んでいますが——、誌面構成のうえでこのようにさせていただきました。次号は二十号となり、二十号記念特集をも企画しております。(細川 記)

河上肇記念会

入会のすすめ

河上肇記念会は、関西を中心として正式に発足して満十二年になります。毎年秋には河上の墓前に集まり、法然院にて法要を営み、会の総会を開いております。会員の資格は会則にある通り、河上先生に学び、先生を知ろうとする人びとです。是非ご入会をおすすめします。

会員の皆さまには友人、知人にこの会をご紹介下さい。

転居通知のお願い

転居、住居表示変更などのあった場合は、事務局へご一報下さい。
〒五四二 大阪市南区
島之内一〇一九(丸善
石油ビル) 千代田商事
株式会社内 河上肇
記念会



貧乏物語 初版

河上肇記念会 会則

- 一、この会は河上肇記念会と称し、大阪市（または京都市）に事務所を置く。
 - 二、この会は、河上肇先生の人格とその業績を讃え、これを広く、かつ永く伝えるための研究ならびに事業を行う。
 - 三、河上肇先生を敬慕し、先生に学び、先生を知ろうとする人びとを会員とし、いかなる資格ならびに政治的立場を問わない。
 - 四、毎年一回総会を京都で開き、その他随時集会および事業を行う。
 - 五、この会の会友および世話人は別の定めによって選び、総会において承認を与える。
- 世話人代表はこの会を代表し、世話人中の事務局担当が事務を執行する。
- 六、この会の経費は、会費ならびに寄付金をもつてあてる。会費は年額三〇〇〇円とする。
 - 七、この会則の改廃は総会の議決による。

京都（きょう）に“煙”あり

1965年 創刊 只今 48号

「煙」同人社

京都市中京区西ノ京藤ノ木町11の24

児玉 誠 方

電話 京都 (075) 811-7646 番

振替 京都 2-15653 番

戦前日本プロレタリア文化運動の生き残り10名(72~82才)が出している異色の同人誌、埋れた青春像の発掘を柱に詩・歌・小説・エッセイもあり、各地、各界、各層からの便りを“声”欄に収めているのも特色

A 5判 120頁 頒価 500円 千200円